

川南町議会・令和7年12月定例会一般質問【蓑原 敏朗 議員】

(令和7年12月9日 午後2時18分 開始)

○議員（蓑原 敏朗議員） さきに通告いたしました質問要旨通告に基づき、3点ほど質問をさせていただきます。

まず最初に、川南町の人口対策に関する質問いたします。

11月13日の新聞報道等によりますと、政府は首相をトップに閣僚らで構成する人口戦略本部を月内に設置すると、また、高市首相は10月の所信表明では、人口減少を日本最大の課題とし、子ども・子育て政策を含む対策を検討していく体制を構築すると言わされました。今頃かと思わないでもありませんが、日本の現状が何もせずに手をこまねいている状況ではないほど、せっぱ詰まっているということなのかなと思いました。

前回も子育てについてはお尋ねしましたが、ついにと申しますか、本町でも1万4,000人を割ってしまいました。やはり本町においても人口減少対策を中心にして各種政策を進めるべきと考えます。

全ての道はローマへの例えではありませんが、町が企て進める施策事業は、子育てや人口対策にどのように寄与するのか、実行を踏まえて考慮すべきではないでしょうか。

また、人口問題や子育てに関わる直接の担当部署でなくとも、間接的にでも人口対策に寄与できるかの配慮を常に念頭に置くべきではないでしょうか。

本町の人口動態を県が発表する推計人口を基にずっと追っていますが、これは県が発表するのは1月から12月の数値で発表していきます。最近では、近年に本町では200人前後の人口減少でしたが、昨年は296人、今年は11月までに既に311人減少しております。少し減少速度が増している気がします。

ここで、まずお尋ねいたします。

町長、本町の人口の推移や新生児の出生の現状について、どのように認識されているかお尋ねいたします。

そのことをまずお伺いして、後の質問は質問席でさせていただきます。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

本町における人口動態は長期的な減少傾向にあり、少子高齢化が急速に進行している状況にあります。出生数よりも死亡数が一貫して多い、自然減の状態が継続しており、大変危惧しております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 危惧してらっしゃるということで、危機感は持ってらっしゃるんだろうなと思いました。自然動態が少ない、減少傾向をおっしゃいましたけど、社会動態についても、現段階で今年はマイナス117です。自然動態が194です。おっしゃるよう

に自然動態のほうがマイナスは大きいですけど、社会動態についても、やはり大きく減少していることをぜひ御認識いただきたいと思います。

小さいことですけど、私の振興班も、私、東垂門というところなんんですけど、世帯数ももう半分以上減ってきております。そして当然高齢化もしているわけです。恥ずかしながら私もいまだに若手です。町長とあんまり変わらないわけですけど、まだ、いまだに若手と言われています。そして、いわゆる振興班長は五、六人でしかもう回せないような状況ですね。簡単に言うと地域の維持が困難になりつつあるなというのを実感しております。

もうちょっと大きく言いますと、大きな規模で、コミュニティーで言いますと、人口が減ってくると必要なものがなくなってしまいますよね。例えば医療機関とか、お店屋さんとかですね。現に例えば山本小とか、大久保のところとか、川小の地域もですけど、昔はちっちゃな商店が何件かあったと思うんですけど、今はないような状況になってきていると思います。

そうすると、同僚議員が若者の定着のことを質問しておりましたけど、若者が年々減るというんですか、そういう負のスパイラル現象に川南も陥りつつあるんじゃないかなと思うんですけど、町長、どのようにお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 萩原議員の質問にお答えいたします。

さきの質問の中でも、人口減、また居住、また働く場等いろんな御質問をいただきました。人口が減少ということに関しては、様々な理由があると捉えています。

まず、環境面、それから経済面、様々な支援が必要であると考えています。ただ、川南町が今できることが何なのかということを考えた場合に、やはり出生率、出生数が少ないということに関しては、若い人たちでもなかなか出会う場がないという。

先日ある方の結婚式に参加してまいりました。その中で、通常の若い結婚ではなくて、ちょっと世代が上がった結婚式だったんですが、その中で多く言われた、参加者の方が言われた言葉が、結婚したくても出会う場がないという、そういった環境が整わない。若い方のアンケートの中でも、結婚はしたい。ただ、そういった環境的な出会う場がないと、というような御意見もありました。

そこで、川南町としても、出会う場をつくると。様々な若い世代の方々が、男性、女性合わせて出会う場を提供する。そういったことに、今後は力を入れてまいりたいと考えています。

以上です。

○議員（萩原 敏朗議員） 何度も申し上げて、ちょっとくどいようですが、地域や町の維持、継続には、一定の人口がどうしても必要だと思うわけです。

町長、ここで川南町には、最低でも、これだけは必要、これ以上は譲れないというデッドライン、レッドラインという言い方もあるようですが、設けるお考えはありませんか。

過去に私の質問で、人口のことじゃなかったと思うんですけど、事業のことで、K P I

とか、K G Iとかいう設定が必要だよと言われたこともあったと思いますけど、数値目標を設定することによって危機感を持つというんですか。自分の敵は自分というような言葉もありますけど、数値を敵に回して努力するというのは、何か設定が必要なんじゃないのかなという気もするわけです。

先ほど、町長、出生率、合計特殊出生率のことだろうと思うんですけど、おっしゃいましたけど、人口置換水準という言葉があります。最低これだけあれば、人口は減らないよと。死んでいく方のことを考慮しても、その数値は2.07と言われているそうです。そこまで一気に行かなくても、人口出生率等について数値目標を設けたらいかがでしょうか。

教育委員会では、中学校の統合の説明会の中では、最低でも4クラス以上ないといい教育環境は設けられないよというようなことも説明されたことがあったと思いますけど、今の出生率では、これはとても1学年4クラスというような中学校もできないと思うんです。ぜひ、人口や出生数の目標数値と言うんですか、を設けるお考えはございませんか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓼原議員の質問にお答えします。

今現在、川南町の出生率、県内でも平均よりも下がっております。目標としては2という数字が一番ベストなのかなと。でも非常に厳しい問題かなと思っていますので、まず宮崎県平均よりも高い1.8、1.9等の目標を設定したいと思っています。以上です。

人口については、最低限の人口というのが、私の心の中には1万2,000。過去に1万2,000、3,000の自治体がありましたが、もうほとんどが1万を減しているんですね。どうしても川南町の力、パワーを維持するということであるならば、1万2,000が最低の基準じゃないかなと考えています。

以上です。

○議員（蓼原 敏朗議員） 目標はもちろん高いほうがいいんでしょうけど、最低デッドラインを設けることによって、一つの危機感釀成にもなると思うんです。ぜひ、今、議会の場ですけど、ぜひ、町として、そんな数値を設けられて、町長が言われたから職員の方もそれを目標にやっていかれるということでしょうけど、ぜひお願いします。

先ほど同僚議員が申し上げられましたけど、先日、総務厚生常任委員会では岡山県の奈義町という町に行政調査に行かさせていただきました。

同僚議員申しましたように、合計特殊出生率がいつも2を超えてる奇跡の町と言われているそうです。そのとき、町長さんも来られて挨拶されましたけど、以前は9,000人ぐらい人口があったんだそうです。今は4,500人程度だそうです。町長も、このままでは町が存続するのは難しいということで、その人口対策として、何が奈義町では必要かということで、子育てが町の人口減少にブレーキをかけるということを位置づけられて頑張っておられるそうです。

人口減少対策、いろんな方法があるだろうと思うんですけど、本町の対策の要は、人口減少についてですよ、何なのかなとそのときお聞きしていくて思ったんですけど、町長どの

ようなお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 萩原議員の質問にお答えします。

子育て、このことがとても大事じゃないかなと思っています。

川南町に「こどみん」、また乳幼児のお子様を預かる、また、御父兄の事情によって一時期川南町で預かるというそういった「こどみん」という施設があります。

この取組については非常に他町村とも自治体とも比べて進んでいる。私も町長選に出る前に公約として、今、述べたことができる町にしたいということを公約に掲げさせていただきましたが、実際にもう現実に動いている、稼働しているということで、その公約はちょっと外させてもらいました。ただ、子育てについては、さらにしっかりと町として支援をしていかなくちゃいけないと。

今現在、国も本気で、先ほど萩原議員がおっしゃいました、遅きにという言葉があるかもしれません、ようやく国挙げて、しっかりと、人口減、少子化、少子高齢化に対する人口減に対して本腰を入れてやることです、まず子育て環境を整えることはしっかりとやっていきたいと思います。

それから様々な住居等もありますが、もう一つ子育ての中で大事なことはやはり教育であると思います。子供にとって、安心、安全で、しっかりと学べる環境を整える。このことが出生率を上げることにも必ず直結してくるんじゃないかなと思っています。

教育の質を上げる。環境を整える。様々な、ほかにも、たくさんの多岐にわたる対策が必要だと考えていますが、まず川面町でできることをしっかりと実行に移してまいりたいと思います。

以上です。

○議員（萩原 敏朗議員） 町長としてはいろんなことをやられたいでしようけど、いろいろ申されましたけど、奈義町みたいに、奈義町では子育てが人口減少対策の背骨と言うんですか、バックボーンだということでしたけど、川南町は、これだ、これを追求するんだということは、まだ持ってらっしゃらない、まだ、そこまでは行ってないというようなことなんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 萩原議員の質問にお答えします。

本来お答えすべきということが、川南町で婚姻数が少ないと。この結婚に至るまでの場を行政としてしっかりと提供していきたい。また、前回、児湯郡町村長会でも、婚活については広域で取り組めないかという提案もさせていただきました。しっかりと婚姻数を上げるという、このことにはしっかりと取り組んでいきたいと思っています。このことによって、出生率もまた人口も増える。そこに必ずつながると思っていますので、婚姻数を増やすということに対しては、川南町、積極的に取り組んでいきたいと思います。

以上です。

○議員（萩原 敏朗議員） これ以上申し上げませんけど、川南町は、人口減少の対策に

は、これだというものを何か柱を設けるべきだと思うんです。もちろん、その枝葉の部分で婚姻とかいろいろあると思うんですけど、9月の私の質問のときにも、子供さんが生まれるのが少ない原因の一つに結婚されないというのがあったわけです。そのときのお答えでは、婚活、見合いをやりますよというお答えだったんですけど、過去に私の似たような質問の中で、婚活とか、転出者へのアンケートをやりますよということでしたけど、どんな状況でしょうか。

○まちづくり課長（稻田 隆志君）　ただいまの御質問にお答えします。

全国的な結婚に対する意識調査等については、前回の議会で答弁させていただいたとおりであります。そのほかに、まちづくり課所管の事業で言いますと、25歳の同窓会において未婚者の方が20人いらっしゃいました。その方にアンケートを取ったところ、一つ、一番やっていただきたい、町にお願いすることというところで、6人が「出会いの場がないのでそういった場を設定してほしい」という声が上がっており、件数としては少ないですけど、実際そういった声が地元からも上がっているということで認識しております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員）　出会いの場が少なく認識していらっしゃると、そのとおりだろうと思うんですけど、だから、そんな場は設けたんですか、設けてないんですかという質問だったつもりですけど。

○まちづくり課長（稻田 隆志君）　婚活支援、出会いの場の創出につきましては、令和8年度の予算として計上を考えているところでございます。その内容につきまして、今、詳細な検討を進めているところです。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員）　私、川南町の職員の方も真面目で、非常にその努力というのを取らないと思うんですよ。これはお世辞でも、おべんちゃらでも何でもないんですけど、ただ、奈義町に行って感じたことは、ひょっとすると川南町のほうが危機感が薄いんじゃないかなという気がしたんですよ。だから危機感を持つために、先ほど目標値の設定なんかはいかがなんでしょうかというところでお尋ねしたつもりなんですけど、やはり8年度にされるということですから、無駄だとは言いません。ぜひ、やっていただきたいと思います。ただ、事は急ぐんだと思うんです。ペンドティングと言うんですか。先送りはあまり許される状況ではないということで、ぜひ、何事もうまくいかないことはあると思います。うまくいかないからといって批判することはあまり正しい方法ではないと思います。ただ、努力せずに駄目じゃろかいちゅうのは、批判に値すると思いますので、ぜひトライしてください。

国内の自治体も、どこも人口減少には悩んでおります。少子化も同様です。そして様々な努力を展開されていますが、少ないんですけど、中にはうまくいっている、先ほどの奈義

町じゃないんですけど、うまくいっている自治体もあるようなんです。それは、ただ、まねるちっても、文化的、経済的、地理的条件、いろんな要素がありますから、そっくりまねることは難しいでしょうが、参考になることはあると思うんです。

そして、また、本町でも諦めることはないと思うんです。諦めたらもう終わりですから、ぜひ、いろんなことにトライしていただきたいと思うんですけど、町長いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 先進地、成功事例のところについては、様々な情報を取り入れながら参考にしていきたいと思います。そして必要であれば、現地まで出向いて直接お話を伺うということも考えていきたいと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） ぜひ、お願ひしたいと思います。

時間がありませんから、あまり言いませんけど、奈義町の例を少し申し上げれば、キャッチフレーズは、出生から大卒までということだそうです。

物心両面、経済的、精神的応援を子育て、出生についてやりますよということなんだろうと思います。そのための施策も、単に予算をつけるとか、何をやるということやなくて、施策の説明が十分に行き渡っているなというふうに思いました。

そして、その中で、ちょっとなるほどなと思ったんですけど、地域づくりが大切だとおっしゃいました。地域の方まで理解を求めていかないと施策はうまくいかないと。先ほど結婚のことを申されましたけど、地域がうまくいっているところは結婚率が高いと。いわゆるお節介な方がいらっしゃるんだろうかなと勝手に想像したわけですけど、結婚率が高いというお話をでした。

そして、人づくりも大切なと思ったのは、高齢者の方も、少子化、子育て対策ばかりだったら、高齢者の方に予算等が少ないんですけど、子供が多いと高齢者も幸せになるという雰囲気があるということでした。

そして、移住希望者は大変多いんだそうです。

先ほど同僚議員がちょっと質問しましたけど、ただ、家がないと。いわゆる公営住宅とか民間アパート等も少ないようです。空き家がもしあれば、すぐに、もう壊れそうなので人が移り住むくらいあるんだそうですけど、奈義町の場合は住居対策がまだ必要なようでした。

そして、もう一つ、付け加えておきますけど、職員の方がおっしゃったんですけど、自衛隊のですね、陸上自衛隊の射撃訓練場、ベースじゃない、基地じゃないですね。ベースじゃありません。基地ではありませんけど、射撃訓練場があるそうです。自衛隊の方も少しいらっしゃるそうですけど、出生率は自衛隊の方も町民の方も全く変わりはないということでした。付け加えておきます。

次の質間に移ります。

自治体の事務は、釈迦に説法ですけど、法定事務と自治事務があるわけですけど、本町

でも国や県からの法定受託事務以外に数々の事務事業をやられておられます。これがいわゆる自治事務と言われるものですが、毎年過去の事業を検証して、新たに、今の時期だと思うんですけど、予算を積み上げて新年度の事業を展開されるわけですが、新年度の事業検証をどのようにされ、次年度にどのように生かされておられるんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 萩原議員の質問にお答えします。

予算有効活用のため、選択と集中については必要であると考えます。

近年新たな行政需要が増加してきており、毎年の決算額を見てみると年々増加の一途をたどっています。健全な財政運営を行っていく上で、今後より一層、事務事業の見直しを行っていく必要があると考えます。

以上です。

○議員（萩原 敏朗議員） 先に答えを言われたような気がしますけど、どのように、この事業はもうやめたほうがいいよな、いや、もうちょっとここを加えてこうしようというような事業見直しはやってないのかということをお聞きしたかったつもりなんですが、先に町長に言われてしまいました。choice & concentrationみたいなことをおっしゃいましたけど、時代の展開が早く、前例踏襲ではなかなかうまくいかない時代に入っているんだと思います。

今、朝ドラを見ておりまして感じたんですけど、昔、江戸時代、男の人はちょんまげをしていました。それが、ちょんまげがなくなるようにするまでに、明治の中頃までかかったそうです。そのくらい意識改革は難しいんだろうと思いませんけど、やはり検証する中で意識改革が必要だと思うんです。前例踏襲ではもう乗り切れない時代だと思うんです。意識を改革することによって、当然行動も変わってくるでしょうし、結果が、いい結果が必ずしも出るとは、出ない場合もあるでしょう。でも、その意識改革、行動をやらなければ、ずっと同じことの積み重ねだろうと思うわけです。予算が無制限あるいは潤沢にあれば、まだいいのですけど、もうそういう時代ではありません。

また、予算は言うまでもなく税金です。限られた予算をより有効に使う必要があると思います。そのためにはどうしても、検証、選択が必要だと思うんです。

先ほど申し上げましたけど、ちょっと人口問題、少子化対策というのは、本当喫緊の課題なんです。町長としては取り組みたい事業、山ほどあるでしょうけど、そこは、やめたり減らす事業については、町民への説明が必要だと思うんですけど、喫緊の課題、人口対策だけじゃなくて、喫緊の課題へ支出する必要が、先ほど町長に先に答えを言われてしまいましたけど、そのための検証というのはいかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 萩原議員の質問にお答えします。

令和4年度までについては、事務事業評価を実施していました。が、その後、事務事業評価を実施していません。今現在、しっかりとそれを構築するために、しっかりと判断できる、評価できる、そういうことをしっかりと取り入れながら、やるべき事業、また、

必要でない事業については削除、そういう形の検証を行っていきたいと思っています。
以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） ぜひ、そのように進めていただきたいと思います。

ここで、二、三、お聞きしておきたいと思います。

実は、今日、同僚議員が午前中質問した中で、経済推進会議のこともどうなっていますかとお聞きするつもりだったんですけど、かなり有効に活用されています、町政運営に取り入れてらっしゃるなと思って感心したわけです。

そのほかに、過去に私の質問の中で、畑かんの水利用については、キウイを広めることによって水利用も高まるでしょうと。

また、先日テレビのニュースの中でブルーベリー、宮崎大学がブルーベリーのこと、薬用効果があるということを発見されて表彰されておりました。また、ラズベリーはどうなったのかなど。

いっとき、アース製薬が協力いただいて、臭いのことなんかも説明いただきました。その後どうなったのかなと思っているわけです。

その辺の事業検証はどうなんでしょうか。

○産業推進課長（河野 英樹君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

まず、キウифルーツへの産地化についてでございます。

高収益品目とされます、ゼスプリ社、ニュージーランドですけども、このキウифルーツを町内で産地化させるため、ゼスプリ社とのライセンス契約を持つあさい農園、本社三重県でございますが、この会社と令和4年度、5年度の2カ年にわたり委託契約を締結し、事業の説明会と現地視察を行うことで生産者の掘り起こしを行いました。

しかしながら、ゼスプリ社のキウイ生産を請け負うためには同社とのライセンス契約を取得しなければならないのですが、既存のライセンスを保有する海外の生産者等が新規のライセンス保有取得に対して難色を示しており、現時点においては、その取得が極めて困難な状況にあります。

加えて収益化の条件となります広大な農地の確保も町内の産地化を図るために高い障壁となっており、現状としまして、産地化に向けた本町行政としての動きは停止した状態でございます。

次に、ラズベリーについてです。平成28年10月から宮崎大学との包括連携協定に基づき産地化について研究を行ってきました。食生活の多様化と健康志向の高まりにより、機能性に起因する成分の種類及び含有量などが高い果物や品種への注目が高まる傾向があり、特に高い抗酸化機能を持つポリフェノールが注目されていたことから、宮崎大学からの提案によりラズベリーという品目を選定したところでございます。

しかしながら、コロナ等の影響もあり、研究協力農家が倒産するなど継続困難な状況もある中、試験地を変更しながら継続実施をしてきたところですが、宮崎大学や協力農家等

の意向もあり、産地化が実現することなく、令和6年度をもって宮崎大学との委託事業は終了したところでございます。

なお、研究で使用したラズベリーの苗は協力農家の方が継続して栽培を行っており、宮崎大学からは、協力農家さんからの要望があれば、本学として対応したいという旨を伺っております。

以上でございます。

○環境課長（甲斐 玲君）　ただいまの蓑原議員の質問にお答えいたします。

アース製薬の件についてですけども、以前、この本議会の一般質問の中でもお答えしたと思うんですが、畜舎の構造上、廃棄するところに当該溶液を噴霧して臭いを削減するというふうな期待を持って研究を取り組んだところですが、実際には町内の畜舎の形態が様々であって、廃棄するところが1カ所に集中していないというような問題もありまして、臭いの削減効果につきましても完全に取れるというものではなかったことから、現在、アース製薬とはちょっと連絡は取っていない状況にあります。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員）　かなりよく検証されて、私、うまくいかなかつたから、どうこう言うつもりは全くありません。いろんな事業に取り組んで、それはうまくいかないとのほうがむしろ多いんだろうと思います。でも、検証が必要ですよということを訴えたかったわけです。ぜひ、今後ともいろんな事業にトライしていただきて、最初からもちろん駄目だと分かっていることをやることはないと思いますが、ぜひ、いろんなことにトライしてやっていただきたいと思いますし、そして検証をしていただき、できたら結果も教えていただくとありがたいと思います。

最後に、最近気になっているんですけど、教育のことについてお伺いします。

この夏に、夏より前だったかもわかりませんけど、川南在住の高校生の大麻に関することが何件か報道されました。薬物利用の低年齢化が言われているわけですが、先日はまた県内の中学生が麻薬、覚醒剤ですね、の使用が報道されていました。

身近にこんなことが起きて、そんな違法なものが簡単に手に入るのかと驚いているところですけど、三つ子の魂百までとかいう言葉もございます。若いときから薬物の恐ろしさ等を教育し、身につけることが、教え込むことが必要ではないかと思いますが、本町の小中学校での薬物教育はどうなっているんでしょうか。

○教育長（平野 博康君）　蓑原議員の御質問にお答えいたします。

今年の5月から6月にかけて、川南町在住の未成年者による大麻に関わる報道は、大変ショックでありましたし、重く受け止めております。

学校における薬物乱用防止に関する学習は、主に保健の学習において小学校6年児と中学校2年児に薬物乱用の害や影響についての学習をいたします。

また、この保健の学習に加え町内のどの学校におきましても、警察署の担当の方や学校

薬剤師の方を講師として招いて薬物乱用防止教室を実施しているところでございます。

特に今回の報道を受けまして、町内の校長会に対して、薬物乱用防止教室を複数回実施したり、参観日に薬物乱用防止の学習を取り上げたりするなど、薬物乱用防止に関わる指導の一層の充実をお願いしたところでございます。

併せて、10月に開催いたしました川南町青少年健全育成協議会の研修会におきましても、警察署の方を講師としてお招きし、薬物についての講演をしていただき、子供たちを見守る方々にも薬物乱用の現状とその怖さに関する研修をしていただきました。

全国的に薬物乱用に関する事件の低年齢化が問題となっておりますので、今後とも児童生徒の指導の充実を図り、薬物に手を染めない資質・能力の育成に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） やられているということですけど、体系的には、小6と中2ということですけど、長時間でなくてもいいと思うんです。頻繁に朝礼のときでも、月1とか週1でもいいですから、短い時間でも、薬物の大変さというんですか、後戻りが難しくなるということも聞いておりますので、ぜひ、染み込むように御教示いただければと思います。

それと、もう一つ、これは質問にも上げていませんけど、最近やっぱりテレビで、すごいなと思うんですけど、A Iと言ふんですか、あんなインターネット等を通じての犯罪等も中学生がハッカーと言ふんですか、忍び込むとか、そういったことも併せて犯罪なんですよちゅうことも、ぜひ、同時にやっていただけたらと思います。

前教育長がどなたか同僚議員の質問の中で、児童生徒の学力向上のためには読解力、具体的に言うと国語能力を高めることが必要ですよと言われていて、ああ、そういったもんかもって感心したわけですけど、一月ぐらい前に新聞で見たんですけど、最近時々聞くんです。リケジョという、カタカナでリケジョと書くみたいんですけど、いう言葉を聞くことがあります。女性が理数系の、女の方が理数系の学校学部に進んで、それらの研究をされることを指すんですけど、今までの概念がどちらかというと女性は理数系には向かない決めつけた結果ではないのかなという気もするわけです。私の高校時代の経験を反省すると、私よりか数学やら理科ができる女の子は幾らでもいたよなと思うわけです。そんな思い出があります。

話がちょっと飛躍しましたけど、少なくとも小中学校段階で児童生徒に不得意な科目とか、不得意な学科とか生じないように、ぜひ、さっきの、あなたは理数系には向いてないんよというような、そんなされてないとは思うんですけど、ぜひお願いしたいものだと思っているところです。

得意な学科を伸ばしてあげることは、これ当然のことですよね。少なくとも思い込みやちょっとしたつまずきで嫌な学科、不得意な学科ができて、ひいては学校嫌いになるよう

なことのないように、ぜひ、教育長、御配慮いただきたいと思います。

○教育長（平野 博康君） 萩原議員の御質問にお答えいたします。

不得意科目をつくらない教育ということではありますけれども、不得意科目をつくらないためには、それぞれの教科等の学習内容をしっかりと身につけさせることが大切であるというふうに思っております。そのために授業の中で習熟の時間をしっかりと確保するようになります。タブレット端末を使ったA I型ドリルを活用したり、また、算数、数学などでは小人数指導を実施したり、さらには学校ごとに呼び名は違いますけれども、まるまる〇〇タイムという学び直しの場を設定したりするなど、各学校の児童生徒の状況に応じて学習内容の定着を図る取組を行っているところでございます。

加えて、学習内容に対して関心を持たせること、学びに向かい合う力を育むことが大切であると考えますので、全県的に取り組んでおります「ひなたの学び」を基にした探究的な学びへの転換を図るべく、各学校において授業改善に取り組んでもらっているところでございます。

確かな学力を育む教育の推進は、本町の重要な施策と考えておりますので、今後ともその充実を図っていけるよう取り組んでまいりたいと思います。

先ほどの御質問の中にありましたけども、子供たちにとって、そのときは不得意であつたとしても、あることをきっかけにして好転するということはよくあることであるというふうに思っております。そのときに結果を出していかないからと、これから学習の可能性を消すようなことはあってはならないというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議員（萩原 敏朗議員） 全員が、川南町の児童生徒の全員がノーベル賞をもらう必要はないんでしょうけど、やはり将来の選択肢と言うんですか、夢、希望が開かれる、いっぱい選択肢が広がるように、ぜひ、よろしくお願ひしておきます。

最後に、学校嫌いになっちゃいけない、いけませんよねという話をしましたけど、現在本町で、小中学校で不登校と言うんですか、そんな現状はどうなんでしょうか。

○教育長（平野 博康君） 不登校の本町での現状ということでありますけれども、全国の傾向と同じように、徐々に増えているところでございます。

以上です。

○議員（萩原 敏朗議員） 一概に善悪とか言いにくいところはあるわけなんですけど、実態は増えている傾向ということですけど、その対策としては、どのようなことをやってらっしゃるんでしょうか。

○教育長（平野 博康君） その対策としましては、不登校児童生徒等の居場所づくりの一環で、教育委員会に教育支援センターとしてのフロンティアルーム、唐瀬原中学校に校内教育支援センターとしてのひなたルームの2つを設置し、学校や学級に行きづらさを感じている児童生徒に対して、学習支援や教育相談を行い、学校生活への復帰を目指してい

るところでございます。この教育支援センターにつきましては、今後も拡充を図っていきたいと考えております。

また、学校への行き渋り傾向が見られる児童生徒に対しては、担任等が訪問したり、スクールソーシャルワーカーに入つてもらって支援を行っていただいたりするなど、不登校にならないような取組も行っているところでございます。

さらに、10月からは、各学校からの相談に対応する教育相談員を教育委員会内に配置し、支援体制の充実も図っているところでございます。

今後とも関係機関との連携を図りながら、不登校の児童生徒が学校生活への復帰や社会的自立を目指していけるような支援の充実を図っていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 将来ある子供たち、ましてや、先ほど町長と討論しましたように、少子化、少ない人数の子供たちです。若いときに芽を摘んだり、なるべく将来が広げるような児童生徒への指導をよろしくお願いしておきます。

何か御意見があれば伺って、私の質問を終わりたいと思います。

○教育長（平野 博康君） 先ほどの町長の発言の中にもありましたけれども、やはり教育の充実というのは、川南町にとって必要不可欠なことであると考えておりますので、いろんな面での充実を今後とも図っていきたいというふうに考えております。

以上です。

（午後3時11分 終了）